

## ○保健医療大学の機能強化に向けた調査検討会議

### 1. 第1回会議

日 時：令和6年9月10日(火) 14時00分～16時00分

場 所：千葉県庁本庁舎5階特別会議室及びオンライン (Zoom)

参加者：

(1) 構成員 (14名中14名出席)

中村委員、入江委員、大河原委員、増渕委員、杉崎委員、高澤委員、田中委員、宮内委員、前田(栄)委員、小栗委員、前田(由)委員、上山委員、龍野委員、佐藤委員

(2) 事務局

① 庁内関係者

岡田健康福祉部長、鈴木保健医療担当部長、井本次長、出浦次長(兼)健康危機対策監、菊地医療整備課長、石橋看護師確保推進室長、稲田副主査、橋元主事

② 一般財団法人日本開発構想研究所

宗川副部長・副主幹研究員、中澤主任研究員、佐々木副主任研究員、小澤研究員

議事次第：

【報告事項】

(1) 「大学の機能強化に向けた検討に際しての論点の提示」について (龍野委員より)

(2) 「保健医療大学の機能強化に向けた調査検討事業」について

【協議事項】

(1) アンケート調査について

(2) 教職員ヒアリングについて

(3) 他大学事例および公立大学法人等調査について

(4) 保健医療大学で養成すべき人材像について

### 主な意見 (大学の機能強化に向けた検討に際しての論点等について)

- 言語聴覚士 (以下「ST」) の養成課程を作っていただきたい。県内の ST の養成校が1校しかないこと、および県内の人材を見ると、小児、障害領域、そして高齢者領域、どこを見ても ST は足りない。病院だけではなく、発達相談等を行う自治体でも全然 ST が手配できない。
- 大学院について、県の健康課題を分析したり、共生社会における社会モデルとして障害をどれだけ解消したりできるかという視点を持ち、政策提言ができ、高度の知識や技術を持ち、専門職を育成できる大学院をぜひ設置してほしい。
- 今後、地域の健康課題を分析することが必須になってくるので、ビッグデータを扱い、

分析するデジタルサイエンスの能力を地域の保健医療に活かし、政策提言もできるような企画力、創造力等が備わっている人材を育成し、保医大が養成している専門職の高度実践能力を高めていく大学院が求められる。

- 実践センター、研究センター、社会貢献センター等の機能を持った大学附属のセンターを設置することで大学の教育・人材育成・社会貢献に非常に良い循環をもたらす。
- 保医大の大学院の先生方と、現職の専門職と一緒に研究活動ができる場があると、より実践的な地域貢献が可能となる。
- 県への貢献として、地域包括ケアを推進できるリーダー的な人材育成、特に保医大は多職種連携教育に力を入れているので、さらに実践力を高め、マネジメント力を高めることにより、地域包括ケアを推進できる人材が育成できる。
- 今の医療現場では、チーム医療が大切になっている。保医大は看護学科、栄養学科、歯科衛生学科、リハビリテーション学科があり、学科を超えてチームで話し合う講義や交流により、他職種の仕事の特性・考え・視点を学ぶことができる。これらを1つのキャンパスで学ぶことで、これから求められている人材が県内に輩出できるのではないか。キャンパス統合も含めて検討いただきたい。

## 2. 第2回会議

日 時：令和6年11月11日（月） 16時00分～18時00分

場 所：千葉県庁本庁舎1階多目的ホール及びオンライン（Zoom）

参加者：

（1）構成員（14名中12名出席）

中村委員、入江委員、増淵委員、杉崎委員、高澤委員、田中委員、宮内委員、  
前田(栄)委員、前田(由)委員、上山委員、龍野委員、佐藤委員  
(欠席：大河原委員、小栗委員)

（2）事務局

① 庁内関係者

岡田健康福祉部長、鈴木保健医療担当部長、井本次長、  
出浦次長（兼）健康危機対策監、菊地医療整備課長、石橋看護師確保推進室長、  
稲田副主査、橋元主事

②一般財団法人日本開発構想研究所

宗川副部長・副主幹研究員、中澤主任研究員、佐々木副主任研究員、小澤研究員、  
奥山客員特別研究員

議事次第：

【報告事項】

- (1) 第1回会議の御意見等の対応について
  - (2) アンケート調査、ヒアリング調査、他大学事例調査の報告（速報）について
- 【協議事項（教育内容と必要な組織等について）】

- (1) 学部・学科の構成や教育内容について
- (2) 大学院の設置可能性について
- (3) その他必要な機能強化について

### 主な意見（検討会議における「養成すべき人材像」について）：

- 千葉県の特徴は、成田空港を有しているということ。アジアとの関係が強化されていかなければならないときに、千葉の立地は今後日本の窓口として、非常に有利。そこに DX・AIを取り入れるなど最先端の教育法、学習法を取り入れた大学を作るということは喫緊の課題と考える。
- 大学院の設置にあたっては、千葉県のリーダーとなる人材を育成してくこと。博士課程を持ち、その領域のトップリーダーを育てることが大事。
- 現場とアカデミアとの交流、さらに最先端のものを常に求める必要がある。超一流のものに対する憧憬のようなものがマスト。国際性も大事。
- いわゆる研究ができる実践家、そして実践が分かる研究者、この実践の輪と教育の輪がブリッジをかけていくという仕組みを作っていないと大学院、大学そのものが生き残れないのではないか。
- 卒業生にはやっぱり千葉県に興味を持ってもらって、千葉県に住み続けて、千葉県で働き続けるということを考えてもらえるような人に育てて欲しい。「千葉県で働き続けてもらうこと」「県民の保健・医療の向上に寄与すること」を意識した人材育成が必要。  
(現状でも、学生が地域で活動する団体を訪問し地域特性や県民の多様な生活や価値観に触れるプログラムを実施。こうした良い点は活かしていく必要がある。)
- キーワードとしては、千葉県だからというところを最優先すべき。DX・AI等々については、今どこに行っても必要になるが、千葉県だからということを考えられる人材である必要がある。

### 3. 第3回会議

日 時：令和7年1月22日（水） 18時00分～19時15分

場 所：千葉県庁本庁舎5階大会議室及びオンライン（Zoom）

参加者：

- (1) 構成員（14名中11名出席）

中村委員（座長）、入江委員、大河原委員、増淵委員、杉崎委員、田中委員、小栗委員、前田(由)委員、上山委員、龍野委員、佐藤委員

(欠席：高澤委員、宮内委員、前田(栄)委員、)

(2) 事務局

① 庁内関係者

岡田健康福祉部長、鈴木保健医療担当部長、井本次長、  
出浦次長(兼)健康危機対策監、菊地医療整備課長、石橋看護師確保推進室長、  
稲田副主査、橋元主事

② 一般財団法人日本開発構想研究所

宗川副部長・副主幹研究員、中澤主任研究員、佐々木副主任研究員、小澤研究員、  
奥山客員特別研究員

**議事次第：**

**【報告事項】**

- (1) 第2回会議の御意見等の対応について
- (2) アンケート調査、ヒアリング調査、他大学事例調査について

**【協議事項】**

- (1) 保医大が養成すべき人材像について
- (2) 教育内容等と必要な組織等
  - ア 学部・学科の構成、大学院の設置、その他必要な機能強化について
  - イ 事務局の最適な運営手法等について
- (3) 立地及び施設・設備、運営主体について
  - ア キャンパス立地の検証について
  - イ 施設・設備の整備について
  - ウ 公立大学法人化について
- (4) 機能強化の進め方について

**主な意見：**

- (1) 全体的な方針について
  - 18歳人口の減少によって、どの大学も学生を集めるのに必死になっている。これからの大学は、学生たちにとっていかに魅力があるか。また地域にどれだけ貢献でき、どれだけ地域の人が価値ある大学として認めてくれるか。こういう大学でないと生きていけないのではないか。
- (2) 教育内容と必要な組織等について
  - 大学院の定員については、リモートをフルに使えば、もう少し定員を増やせるのではないか。将来、発展できるよう、幅を持った想定にすることがよいと考える。
  - 大学院の修業年限について、社会人は業務優先になってしまうこともあるため、例えば選択制で3年にできるとか、流動的に選択できる仕組みがあると良い。

- 神奈川県立保健福祉大学の大学院では、社会人の方は半数以上が長期履修生。2年間通うのと同じ学費で、3年なり4年なり長期に時間をかけて修了することのできる長期履修制度の検討は大事なことだと考える。

### (3) 立地及び施設・設備について

- 1キャンパスに統合した方が良い。遠くから来ている学生にとっては、2キャンパス間の移動や、進級時にアパートを変える必要があるなどの負担がある。1キャンパスになれば多職種連携などにプラスになる。統合先は、学生が減っていくということを考えると、学生が通いやすさという視点で考えるべき。幕張統合が良いと考える。
- 交通の便が良く、注目を集められるという点で、幕張統合が良いと考える。
- 立地の検討は、立場によって見方はあるとは思いますが、私はあくまでも学生やその保護者の視点で決めていくべきだと思う。また、医療従事者の多数を占める女性の視点も重視する必要があると考える。競争力を維持するうえでは都心に近いことは重要。大学院や社会人教育機能についても、学部卒業後の女性のライフステージを考慮に入れて立地を検討すべきではないか。
- 幕張キャンパス統合案を強く支持する。学生にとり、キャンパスの立地は大学を選ぶ際の再重要項目。郊外にキャンパスを移転した都心の大学では、近年、キャンパスを都心回帰させる動きがあり、立地条件の向上により志願者数の回復にも繋がっている。自然環境の良い仁戸名は魅力的ではあるが、「遠い」「不便」のイメージが学生募集に悪影響を及ぼす事を懸念する。
- 幕張の1キャンパスに賛成である。仁戸名キャンパスの周辺には学生のアパートや飲食の場がない。前の大網街道はとても混む。特に仕事が終わった時間あたりに仁戸名に集まろうとすると、大渋滞で非常に苦労すると思う。バスはあるが、昨今の人材不足で本数がかなり削られてきている。そのため、交通手段の面で仁戸名キャンパスはかなり苦しくなってしまうのかなというのを感じている。

### (4) 運営主体（公立大学法人化）について

- 基本的には法人化に賛成だが、国立大学の法人化では、デメリットもあった。財産の問題、特に資金繰りについては、県と風通しを良くしておく必要がある。何年か経ち、人が代って冷たい関係になれば問題が起きる可能性もある。十分注意して欲しい。
- 環境の変化をキャッチアップしながら大学改革を進めていく必要があるが、直営で事務局職員が入れ替わり残っていない状況では非常に難しいところがある。
- 法人化の検討にあたっては、国立大学法人化のような単純な経済的理念で進めるのではなく、優秀な人材を県に残していくという観点を考慮していただきたい。
- 大学院を作って研究環境を活発にさせるという観点から考えると、法人化は必要。外部資金をしっかりと稼いでこないと研究はできないが、外部から稼いだお金を県の一般会計に入れないと運用できないという話では、研究はできない。

- 公立大学法人化は必要。教職員人事において雇用・クロスアポイントメントを柔軟にする体制を作り、他大学や企業等の提携を推進する等、職員の専門性向上に資する。収益事業の拡大により、安定財源確保を期待できる。自主性・自律性こそが、変化の激しい社会においての対応力を高める。財政的な自由度を高めることでニーズに応じた教育プログラム開発や研究活動が期待できる。ただし、県の財政支援は不可欠である。

(5) 機能強化の進め方について

- 向こう 5年、10年のスパンで建築費が下がる見込みは全く無い であろうので、1年、2年遅れただけで予算が相当増えてしまう。予算額が高くなると計画も縮小せざるを得なくなってしまうため、是非、急いで進めていただきたい。

#### 4. 第4回会議

日 時：令和7年3月4日（火） 18時00分～19時00分

場 所：千葉県庁本庁舎5階大会議室及びオンライン（Zoom）

参加者：

(1) 構成員（14名中13名出席）

中村委員（座長）、入江委員、大河原委員、増淵委員、杉崎委員、高澤委員、田中委員、宮内委員、前田(栄)委員、小栗委員、前田(由)委員、上山委員、龍野委員、（欠席：佐藤委員）

(2) 事務局

① 庁内関係者

岡田健康福祉部長、鈴木保健医療担当部長、井本次長、出浦次長（兼）健康危機対策監、菊地医療整備課長、石橋看護師確保推進室長、稲田副主査、橋元主事

② 一般財団法人日本開発構想研究所

宗川副部長・副主幹研究員、中澤主任研究員、佐々木副主任研究員、小澤研究員、奥山客員特別研究員

議事次第：

【報告事項】

- (1) 第3回会議の御意見等の対応について

【協議事項】

- (1) 立地及び施設・設備、運営主体について  
(2) 機能強化の進め方について  
(3) 調査検討事業報告書（案）について

### 主な意見（機能強化の進め方全般等について）

- 学費減免について今後検討してほしい。大学院で働きながら学ぶ場合、優秀な人が学費の安い方に行ってしまうことが、実際に周囲で起こっている。
- 機能強化の進め方について、大学内に全体を統括する部署があると良い。特に行政や企業等との連携や、市町村等への地域貢献等をミッションとして組織に組み入れることも検討されたい。
- 施設設備に関してはできる限り費用を抑え、人や教育研究等でお金がかかる施策等に回していただくことがいいのではないか。
- ガバナンス体制の具体について、公立大学法人化の際には、コンプライアンスの視点を担保してほしい。専門性の向上、効率化、クロスアポイントメント等々を考えるにあたって、懸念事項となる可能性があるため。
- 施設設備の新設および改修中でも、学会や講演会ができる講堂・大会議室など、教育研究が適切に継続できる計画であるかの観点で再度確認いただきたい。